

笑顔同封

町田市立堺中学校
校長 大石 龍
電話：042(771)2348
FAX：042(772)4218

2018年 4月20日 第1号

堺中～すべてはここから始まる *Where it all begins.*

中学生として、2つのことを目指して欲しいと思います。ひとつは「物事を深く考える中学生になろう」ということです。

皆さんは、「宮大工」ということばを聞いたことがあるでしょうか。もしかしたら2年後の修学旅行で、奈良の法隆寺を訪れるかも知れませんが、法隆寺のように、数百年以上の長い歴史を誇るお寺や五重塔などを専門的に直したり作ったりする大工さんのことをいいます。その宮大工として西岡常一（にしおか つねかず）さんという有名な人がいました。西岡さんの「木のいのち、木のこころ」という本に、こんな下りがあります。「物覚えのいい人は、教えたとおりの丸暗記してしまいます。でもなぜ、と考える人を育てる方が大工としてはいいんです。丸暗記には根がありませんのや。根さえしっかりしていたら、そこが岩だろうが、風の強いところだろうが、やっていけますわ。」

西岡さんのことばを今の皆さんに当てはめるとするなら、その場をスマートに切り抜ける術を学ぶのではなく、深くなぜを問い、「根を張ること」を実現させようとする営みが、必要だということでしょう。

確かに何かを丸暗記できることも大切な能力です。テストだって一時はいい点が取れるかも知れませんが、でもそこに深く考える力が育っていなければ、覚えたことに全く意味がありません。「なぜ、を問う」とはどういうことかは、これから朝礼などでも話していきます。

皆さんに目指して欲しい、もうひとつの姿は、「心のつながりを求める中学生になろう」ということです。7年前の東日本大震災後の今、一層「人を大切にすること」や「心のつながり」について考えなくてはならない時代になっています。昨年の夏、次のような新聞記事を目にしました。

「お連れ様はどちらですか？」妻に先立たれた男性、客室乗務員の対応に… という記事です。

50年以上も一緒に連れ添った妻に先立たれた知人が、こんなことを話した。葬儀を終えた後、故郷の寺に納骨するため、羽田空港から空路、九州へと向かった。

遺骨を機内に持ち込めることは知っていた。でも入れたバッグがかなり大きく、念のため搭乗手続きの際に中身を伝えておいた。機内に乗り込み、上の棚にバッグを入れて席に着くと、客室乗務員がやって来てこう言った。「隣の席を空けております。お連れ様はどちらですか？」

搭乗手続きで話したことが機内に伝わっていたのだ。知人が「ああ、上の棚です」と説明すると、乗務員はバッグを座席に下ろしてシートベルトを締めてくれた。飛行中には「お連れ様の分です」と飲み物も出してくれたという。

「最後に2人でいい“旅行”ができた」と知人。その表情を見ていたら、こちらも温かい気持ちになった。

という小さな記事でした。

ちょっとした気遣いは人の心をほぐし、ちょっとした心遣いは人の気持ちを温めるものです。そしてそれは、人を大切にすることにつながる、と私は考えています。

人として最も大切なのは、「その人の気持ち」だろうし、「心」だと思います。同時にそれは「心のつながり」、つまり「絆」を生みます。

堺中学校は昨年、創立70周年を迎えました。この長きに渡る豊かな歴史を刻んでこられたのは、不自由な時代にあっても、その時々で本校の教育に携わってこられた先人の方々と生徒の「心のつながり」があったからでしょう。そして今、新しい未来に向け、さらに年輪を重ねていけるのも、今ここにいらっしゃる保護者や地域の方々、生徒の皆さん、そして私たち教職員との「絆」があるからだと思うのです。

これから皆さんが本格的に勉強する英語に、こんな表現があります。---- Where it all begins. 「すべてが始まる場所」という意味です。「ここからすべてが始まる」といっても構いません。皆さんが入学した堺中学校。そうです。すべてはここから始まるのです。

今日の門出は、まさにその一歩。着実な第一歩を踏み出す気持ちで、毎日元気に中学校の門をくぐってきて下さいね。

本年度入学式式辞から